

マンガで知る科学の世界
福江 純 (大阪教育大学)

マンガと科学の関係で、まず最初に特記したいのは、『鉄腕アトム』に代表される手塚マンガだ(各社から何種類も出ているので出版社名は記さない)。いま、40代から50代の人にとっては科学のすべてがそこにあったわけだが、アトム元年の今年でも通用する内容だ。まあ、手塚マンガは別格である。

つぎに“学習マンガ”というジャンルがある。たとえば、学研マンガ『宇宙のひみつ』(津原義明、1992年、148p、800円、学習研究社)。この手のマンガは、もともと“学習”にウエイトがかかっているために、どうしてもストーリー性が弱く、エンタテインメント性にかけるクライがあるのは致し方ないか。中学生以上では手に取る気にならないと思うが、小学生には勧められるタイプである。

その点、学習マンガの色彩を帯びながらも、大人も楽しめるのが、本稿一押し『まんがサイエンス(現在7巻)』(あさりよしとお、2002年、202p、800円、学習研究社)だ。ぼくもずっと購入して子供と一緒に読んでいる。

スペースもないので急ごう。宇宙開発マンガを6点。『ASTRONAUTS(全4巻)』(沖 一、1986年、243p、500円、講談社)…時代に先駆けた佳作。『パスポートブルー(全12巻)』(石渡 治、2001年、190p、400円、小学館)…きっとあなたも青いパスポートを思い出すに違いない。『プラネテス(現在3巻まで)』(幸村 誠、2003年、230p、650円、講談社)…細かいことはどうでもよくなる気がする。『ふたつのスピカ(現在2巻まで)』(柳沼 行、2002年、190p、530円、メディアファクトリー)…ほのぼのしてくる。『MOONLIGHT MILE(現在5巻)』(太田垣康男、2003年、206p、530円、小学館)…パンチがあるがエロいシーンもあるのでR指定かな。『ソラリウム』(伊藤圭一、2003年、213p、760円、集英社)…これもパンチがあり赤丸上昇中。

電腦マンガもたくさんあるけど、この2つは外せない。『攻殻機動隊』(士郎正宗、1991年、346p、1000円、講談社)と『ARMS(全22巻)』(皆川亮二、2002年、212p、500円、小学館)…共にすごい一言。

最後に、我々のグループで作った『マンガ 手作りの宇宙』(横尾武夫他、2000年、148p、1500円、裳華房)を紹介しておく。これはマンガで解説する天文教材お役立ち集だ。

プロフィール

ブラックホール周辺の活動的天体現象を研究しているが、科学の教育普及や科学デザイン表現にも関心が高い。アニメやSFやゲームも大好きで、究極の科楽を追求する天文楽者を目指している。著書『SF天文学入門』(裳華房)、『SFアニメの科学』(光文社)など。